

2. 技術的考察

東京家政学院短大 ○豊原 繁子  
井上 和子

1. ここにあげたドレスは諸井彩子夫人が夫君六郎氏ドイツ在任中に注文依頼されたもので1910年前後の製作とみられる。これは服装史上、貴重な資料であることは疑いなく、技術史的な考察をほどこして現代の服飾デザイン縫製に参考とすべき点を研究してみたいと思う。

2. ドレス…紫色うす地リバティサテン，S字形カーブのシルエット，ループ飾り

帽子…黒ビロード，オーストレッチの羽飾り，クラウンは浅くブリムは幅広く平なキャプリンヌ型

靴下…ベイジュ，絹メリヤス編模様入り

靴 …ベイジュ，パンプス型ハイヒール，ビーズししゅう飾り

これら一揃いの洋装，この種の洋装は明治末年の貴婦人の写真によくみ受けられる。

3. このドレスの技術的研究により，スタイルの構成，裁断の妙味，縫製の詳細にゆきとどいた点，困難な仕立等は，被服デザインや被服工作上に示唆を与えることが多分で，今日の服装技術の礎石をなした。貴重な服装を調査研究して，衣生活水準の上昇をみる現代の服装に一層の活用が肝要であると思われる。